

この特報は、6/17 発行の「もも・ネクタリン特報No.⑦」の薬剤散布（散布目安は、7/4～8 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.⑦の内容を再度、ご確認ください。
梅雨期に入り悪天候が続いています。防除タイミングを逃さないよう、早めの散布を心がけて下さい。

＊あかつき等、早生種 最終防除（有袋栽培の場合は、除袋後に散布する）

もも

第9回 定期散布

散布時期

7 月中下旬 （第 8 回目の定期散布から 1 4 日後）

・散布日の目安：7 月 1 6 日～2 2 日

散布日 7 月 日

散布量 リットル

散布薬剤

水 1 0 0 リットル当り

展着剤（ハイテンパワー） 1 0 mℓ

ダニコングフロアブル 5 0 mℓ （収穫前日まで、1 回以内）

オンリーワンフロアブル 5 0 mℓ （収穫前日まで、3 回以内）

エクシレル S E 2 0 mℓ （収穫前日まで、3 回以内）

散布量

1 0 アール当り 6 0 0 リットル

混用順

水 ⇒ 展着剤 ⇒ ダニコング F ⇒ オンリーワン F ⇒ エクシレル S E

対象病害虫

灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、ハマキムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ、ケムシ類、ハダニ類

【注意事項】

- ① カイガラムシ類 発生園は、除袋後の散布にコルト顆粒水和剤の 2, 000 倍（収穫前日まで、3 回以内）を加用する。
② ダニコングフロアブルに代えて、ダニゲッターフロアブルの 2, 000 倍（収穫前日まで、1 回以内）を使用してもよい。

ネクタリン

第9回 定期散布

散布時期

7 月中下旬 （第 8 回目の定期散布から 1 4 日後）

・散布日の目安：7 月 1 6 日～2 2 日

散布日 7 月 日

散布量 リットル

散布薬剤

水 1 0 0 リットル当り

展着剤（ハイテンパワー） 1 0 mℓ

オンリーワンフロアブル 5 0 mℓ （収穫前日まで、3 回以内）

エクシレル S E 2 0 mℓ （収穫前日まで、3 回以内）

散布量

1 0 アール当り 6 0 0 リットル

混用順

水 ⇒ 展着剤 ⇒ オンリーワン F ⇒ エクシレル S E

対象病害虫

黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、モモハモグリガ

【注意事項】 ハダニ類 発生園は、ダニコングフロアブルの 2, 000 倍（収穫前日まで、1 回以内）を加用する。

次ページもご覧ください。

除袋～収穫までの流れ

除袋（収穫 14～18 日前） ⇒ 収穫前最終防除 ⇒ 反射マルチ（収穫 10～14 日前） ⇒ 収穫
（葉摘みは、除袋期から反射マルチを敷くまでに適宜実施する）

◆除袋（収穫開始予想は、平年並みです。詳細は、りんごもも部会特報No.5 の裏面をご覧ください）

	品 種	除袋 終了目安
着色しやすい品種	白鳳・あかつき・なつっこ・川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃など	収穫 14 日前
着色しにくい品種	山根白桃・志賀白桃・白桃・白根白桃・ゴールデンピーチ・秀峰など	収穫 14～18 日前

- ① 除袋適期：果実の地色が抜け、やや緑色が残っている時期。地色の緑色が完全に抜け、果面が黄白色では遅い。
- ② 果実温が低い時間帯に除袋を行うと日焼けを生じやすいため、早朝に除袋は行わない。
- ③ 2重袋を使用している場合は、外紙を除いて中袋を残して収穫する。
⇒ 成熟が早まる傾向があるため、除袋が遅れないよう注意する。除袋が遅れると、鮮明な着色に仕上がらない。
- ④ 除袋後は果実に密着している葉を摘み取り、着色のムラを防ぐ。（極端な葉摘みはしないこと）
- ⑤ 除袋時期に入って天候不順で日照不足が続くときは、2日くらい早めに除袋する。

◆反射マルチ

反射マルチは白系マルチ『タイベック』等を使用する。
（タイベック ⇒ 夏の高温対策、成熟の極端な進みを回避。着色向上にも有効）

着色のしやすい品種＝収穫 10～14 日前	着色しにくい品種＝収穫 14 日前
[使用上の注意] 1. 徒長枝切りや樹冠の混みあっている枝を整理し、園全体の日照条件をよくする。（暗い園は効果が少ない） 2. 事前に園内の除草や整地を行ない、地面を平らにする。 3. 反射マルチは風で飛ばないように固定する。 4. 着色が食味より先行するため、早もぎになりやすいので収穫は熟度を確認してから行なう。	

◆葉摘み

果実周辺の密着している 2～3 枚(多くても 5～6 枚程度)を摘む。
葉摘み開始時期 ⇒ 有袋：除袋期前後から実施 無袋：着色始めから実施

◆収穫適期

- ◎収穫目安は、果実に弾力があり、果面（縫合線）が十分張り切った頃。
【もも】有袋果実は果梗部周辺の地色が淡黄色になり、手のひらで弾力を感じるようになる。
【ネクタリン】果肉に弾力が感じられ、果実が丸みを帯びてくる。
＊極早生品種（タマキ、赤宝、サマークリスタル等）および早生種の白鳳等は、地色が完全に抜けてからの収穫では遅いため、果梗部周辺の地色が若干残る程度で収穫する。
- ◎地域・園地によりかなり収穫期に差があるので、一気に収穫せず試し採りをして収穫期を判断する。
- ◎果実の鮮度保持のため、果実温の低い時間帯に収穫する。（早朝から午前 8 時ごろまでが望ましい）
- ◎収穫の際は、果頂部に指先をかけないように手のひらを果頂部にあて、指先は果梗部の近くの肩にかけて、ゆっくりと動かして採取する。

◆一般管理

- 果実肥大が進んでくると、主枝の垂れ下がり、枝折れが心配されます。支柱立て、枝つりを見直しましょう。
- ★灌 水：10 日以上雨が降らない場合、必要に応じて灌水する。＊参考：成熟 10 日前までは、10 a 当り 20 ミリ程度。
- ★排水対策：本年は梅雨明け以降も多雨が予想されているため、予め暗渠・明渠等の対策を講じておく。